

# 冬季戶外での遊ばせ方

東京市市民局公園課 末田ます

子供は風の子外に出てあそべ、こいつてこまさら命令しなくても潑刺し元氣一ぱいではねたりしてあそぶのが眞の子供だと思ふ。此の頃の冬の寒い日にちつこ家の中に閉ぢこもつて火鉢にかぢりついて居る子供は臆病で友達と遊ばない子供だと思ふ、即ちお山の大将又何時も青白い顔をして僵僕の様なかつこうをして私も皆面白くあそび度いけれど體が思ふ様に動かない、若しも少しでもあそぼうものなら後でせきが出たり又は熱が出てちつこ子供らしくあそべないこの様な子供は眞に氣の毒である。冬になるさ何處の幼稚園でも屋内のみで指導してゐる又母親も非常にかかる設備を喜んで居る様である。時局認識さひひませうか、最近公園に來ます幼児達は兵隊さん達を見て自分達もよく外で遊ぼうさいふ様な勇氣が見える。東京市では公園数が百八十三ヶ所ありますが主として從來は兒童を中心として遊びを指導して公園をよく利用させることに努めて來ましたが、最近午前中幼児が保護者に連れられて來ま

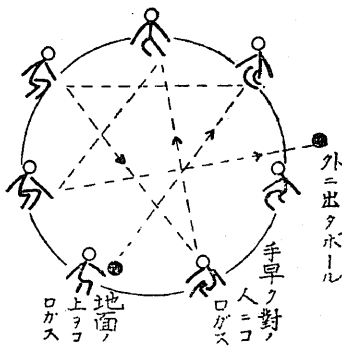
すので日比谷、上野、芝、有栖川、清澄、大塚の六ヶ所で幼児指導を開始してゐます。午前の九時より十二時迄開催して居ます。此の六ヶ所はそれらの境遇が異つて特徴があります。又各個所には専門の指導者さ助手を派遣して専ら近隣の幼兒を面白く、愉快に安全地である公園で遊ばせて居ります。初めには母親達は虛榮心から戶外指導は設備が簡單で且つ立派な建物がないからあの様な場所へは子供を送られないさいふ様な考へ方をする母親もあつた。然し理解あるお母様方は姉も妹も弟もさいふ様につけてよこされたので皆體育的指導でなく社交、情操の陶冶さいふ様に進歩して來るのを見て効果のある事を認識される様になつた事は眞にうれしい事でありませう。そこで冬になるさ毎年人数が減じて居ましたが最近は數に於て變りがない、そこで一般の幼稚園でも子供の體位向上につこめられてゐる。寒い日でも屋外に出して元氣に愉快に遊ばせることをすゝめたい。第一には設備さ冬にふさはしい温かくなる遊

戯を指導する方法が最も肝要だと思ひます。即ち面白く、活動し丈夫に元氣にさせることであると思ひます。先づ設備をしましては北風をよけるために圖面に示す様な三〇頁) 三本の「クイ」を立て其處へ三門位の「マク」を張り廻らすのである。そして中央にテーブル一周圍に子供用腰掛を設備するのであります。十二月、一月、二月此の期間は寒いのでよく「タキ火」をします。少し落葉をかきあつめて焚いても大變身體が温まります。「マク」がかけてある場所では音楽、お話、紙芝居、人形芝居、手技などをしますが子供の一番好きな遊戯をするときは中央の廣い處でアコーディオンやピアノなどは持運びに不便であるので極簡單な樂器を使用して居ます。其他公園では子供を一ヶ所で指導しません。ハイキングをいつて木の實を拾ひに行つたり又は日光のよくさす花壇にいつて繪を書かせたり或は野菜の栽培してある畑へ出て芋堀りをしたり其他いろ／＼の植物についてよく觀察させます。東京の子供は芋がつるについて來るのを始めて見る子供が多いので皆で一ツでも引張り出すと鬼の首でも取つたかの様にして喜ぶのであります。又小鳥や動物を見てはさても面白がる。日比谷に一羽の「オーム」が飼つてあります。子供達が友達を呼ぶ時「おやん／＼」といふ人氣者の名前を覚えて最近では「いわをちやん

／＼」といつて居ります。又朝夕の挨拶の「お早う」、「さようなら」先生今日は「等澤山をまねて居りますが動物についてもよく觀察することが出来るのであります。公園は自然に對する材料が豊富にありますので子供達は文化的資材に恵まれて居ります。次に温くなる遊戯を御紹介しますが参考になれば幸ひであります。現時局下愈々人的資源を確保しなければならぬ時皆様の御子様を丈夫にお國に役立つ人間に育て上げていたゞきたいと思ひます。

### 一、あつていボール

用意 ボール一個  
方法 圓陣を畫いて



て並ぶボールを手で地面の上を轉がして反對側の人に送る。出来るだけ早く出す事、ボールが外にいたら終り又始めからする。この遊びのボールはさても、あつていボールであるから長い間持つて居ては火傷をしてつぶ敏速にボールを轉がす様に説明する。子供を二組に分けて長い間早く上手にボールを轉して居た方の組が勝にして

面白い。(先にボールを圓陣外に出した組が負)

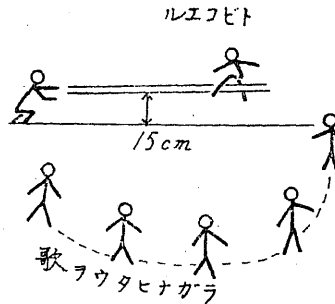
注意 1、同じ子供ばかりボールを使はぬ様にする

2、敏速に動作をさせる

### 二、飛びつこ遊び

用意 一米位の細い棒一本

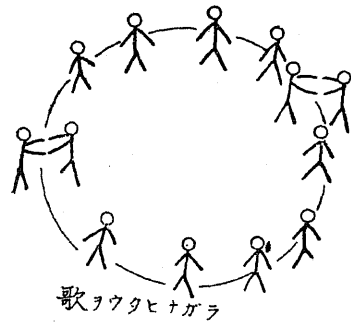
方法 指導者は棒を地面より十五センチ米位の高さに支



え、子供は先頭より歌を唄ひながら棒を飛び越える。

だん／＼子供が上手に飛こえる様になつたら高さを高くしてゆく。幼児には特に飛ぶ愉快さを覚えさせる事  
注意 1、棒の高さは急に高くせぬ様に

橋ラツクル



(橋)を作る。圓の人は皆此橋の下をくゞり通るこゝ、合圖と共にこの橋を落し丁度この下を通過して居る人をつかまえる。圓の人も合圖があつたら止るこゝ。

この橋を落されて捕つた人は中央に出て落された人同志二人

づゝになり圓の他の部に橋を作る、圓の人は總ての橋の下を通るこゝ。だん／＼橋を増して少數が残るまで続ける。圓の人が走りくゞる時、音楽か或はさくら／＼等の歌を唄ふこゝ良い、軍歌も結構だと思ふ。

注意 1、橋の下を通るまき、つい前の人の肩腰に手を置きたがるが一人が轉んだ時危い故一人一人  
で走らせるこゝ

2、あまり小さい子供ばかりの時は手を全部が繋いでも良い、但し運動は束縛される恐れがある

3、合圖を無しにして音楽を用ひ音楽が止つた時

### 三、橋落し

用意 笛或は大鼓、人數により適宜の圓陣を畫く

方法 全體で圓を作る、一部に二人が手を繋ぎトンネル

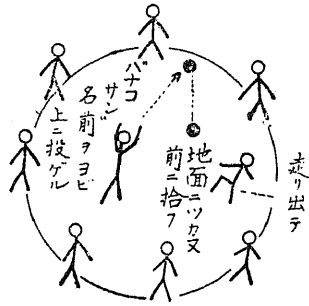
2、歌は全部の子供が良く知つてゐるものでしかも良くこの遊びのリズムに合つたもの

落すこころにしても良い、感覺の練習になる。

#### 四、呼び出しボール

用意 年齢に適したボール一個

方法 圓陣畫き並ぶ。鬼を一人出す。鬼はボールを持ち圓



の中央に立つ、そして圓の人の誰れかの名前を大聲で呼び同時にボールを空に投げ上げる、名前を呼ばれた人はすぐに飛出してそのボールを拾ふ、ボールが一度地面につかぬ前に取るこゝが出来たら鬼はもう一度する、ボ

ールを取れなかつたらこんきはその人が鬼になり前の人と同じ事をする。

注意 1、同じ人のみ名前が呼ばれぬ様に全部が飛び出る機會を作る

2、上手になつたら圓の大きさを廣くする。

